

水稲早期栽培農家の労働配分について

上原三郎*・内田昭修*

UEHARA, S. and UCHIDA, A. Labour Distribution in the
Early-Sowing System of Rice Planting on a Farm.

緒言 水稲早期栽培は我が国西南暖地の各所において、各種気象災害の回避や秋落対策、更に水田作経営の集約化などの諸点で極めて重要な意義をもつに至つた。福岡県では県農政面での調査によると水田 25,000 ha (総面積の約 1/3) が早期作の適応地とされ、積極的に普及奨励されているが、昭和 34 年度の実施面積は僅か 1,800 ha (総面積の 2%) にとどまつている。けれども今後早期作の普及にとめない農家の経営構造がどのように変化するかを慎重に検討しておく必要がある。早期作の導入により経営は主に作付体系と労働配分の面で変化するが、今回は特に労働配分の変化を問題としてとりあげ、解明に当つた。

*福岡県農業試験場

調査要領 昭和 33 年度に水稲早期作導入を中心課題として新設した糸島郡前原町波多江営農試験地、池田部落の一担当農家の作業記録をもととして分析した。この農家は水田 235 a を耕作して、昭和 34 年度は早期作を 50 a 実施した。

調査結果と分析 先ず早期作の所要労力を作業別に普通作と比べると第 1 表のとおりで、早期の方が約 24% 多くなつていて、特に苗代関係が目立つて増え本田耕中除草は節減されている。

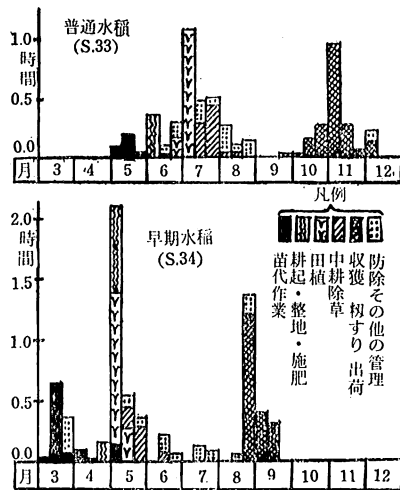
次に時期別にどのような作業別労働配分を示すかをみると第 1 図のとおりである。即ち普通作の 7 月上旬と 11 月上旬の植付、収穫の山が早期作ではそれぞれ 2 カ月前にずれて、各々の労働ピークと谷とががみ合

第 1 表 早期作と普通作の作業別労力比較 (単位 1a 当り/時間)

項目	苗代作業				本 田 作 業										合計
	播種まで	播種	播種後	苗代小計	耕起整地	施肥	田植	防除	中耕除草	その他の管理	刈取乾燥	運搬調	もみすり出荷	本田小計	
早期作(34年)㉔	1.36	0.54	0.36	2.26	0.34	1.44	3.07	0.43	1.23	1.46	1.48	1.86	0.60	11.91	14.17
普通作(33年)㉕	0.26	0.14	0.14	0.54	0.21	0.84	2.54	0.29	1.80	1.40	1.32	2.00	0.47	10.87	11.41
㉔/㉕ × 100 (%)	523.1	385.7	257.1	418.5	161.9	171.4	120.9	148.3	68.3	104.3	112.1	93.0	127.7	109.6	124.2

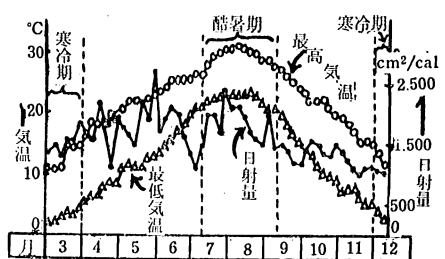
(註)：早期作は苗代、田植、本田防除についてこの部落の早期作農家の 19 戸が共同作業を行つたので、この農家の面積当り労力を算出した。普通作共同作業は防除作業のみである。

第 1 図 早期および普通水稲の労働配分 (1a 当り)



つた関係になつている。このことは水田の一部に早期作をとり入れることによつて労働配分がならされる原理となつている。

第 2 図 気温、日射量の半月別変化



(註)：測候地……福岡県筑紫郡筑紫野町
気温は 11 年平均、日射量は 4 年平均

次に気温、日射量を示す第 2 図との関連から早期作は普通作に比べて寒冷期、又は酷暑期の作業をどのように要求するかを第 2 表で明らかにした。即ち酷暑

第 2 表 普通作と早期作の酷暑・寒冷期作業量比較 (単位 1a 当り/時間)

項目	酷 暑 期 作 業							寒 冷 期 作 業					合計	
	施肥	中耕除草	防除	その他の管理	刈取り乾燥	脱穀調整	小計	苗代作業			もみすり出荷	小計		
								播種まで	播種	播種後				
普通作 ㉕	0.14	1.68	0.24	0.93	—	—	2.99	0.03	—	—	0.14	0.25	0.42	3.41
早期作 ㉔	—	0.06	0.18	0.57	1.48	1.82	4.11	1.18	0.39	0.02	0.60	—	2.19	6.30
差 (㉔ - ㉕)	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(+)
	0.14	1.62	0.06	0.36	1.48	1.82	1.12	1.15	0.39	0.02	0.46	0.25	1.77	2.89

期の作業として普通作では中耕除草、早期作では収穫作業が目立つて多い。寒冷期の作業も早期作が多くなっていて、酷暑寒冷期の作業時間の差は約 3 時間である。

結言 面積当り労力は早期作の方がやや多くなる傾向にあるが、早期作の導入は確かに労働配分をなら

す効果がある。けれども酷暑期や寒冷期の中で、しかも狭い作業適期の中で激しい労働を要求することとなる。これが早期作の普及を困難にする一原因と考えられる。従つて今後の早期作普及に残された問題点だと思ふ。